

メキシコの政策金利引き上げについて

ポイント① 政策金利を6.25%に引き上げ

2月9日、メキシコ中央銀行は金融政策決定会合を開催し、大方の市場予想通り、政策金利であるオフィシャル・オーバーナイト・レートを0.50%引き上げ、年率6.25%とすることを決定しました。

ポイント② インフレへの対応を優先

今回の決定には、インフレを抑制する狙いがあります。

同国のインフレ率は、米大統領選後のペソの下落などを背景に、足元で急上昇しています。政府によるガソリン価格の引き上げの影響なども受け、1月のインフレ率は、4.7%と、約4年ぶりの水準まで上昇しました。

同中銀は今後のインフレ見通しについて、2017年のほとんどの期間において目標上限の4%を上回るものの、年末にかけて収束し、2018年には目標の3%に向けて低下していくとみえています。

一方、経済について、足元で減速していることに加え、トランプ米大統領の経済政策がメキシコ経済に与える影響に対する懸念が高まっています。2016年10-12月期のGDP（国内総生産）成長率は、前期比+0.6%と、前四半期から減速しました。また、今後のNAFTA（北米自由貿易協定）の再交渉などを受けた対米貿易の縮小リスクなど、同国経済の不確実性が高まっており、足元で消費者信頼感指数が急低下しています。

同中銀は、インフレ率の上昇と経済の悪化というジレンマを抱えるなか、インフレへの対応を優先しました。

ポイント③ メキシコペソは上昇

2月9日の外国為替市場（ニューヨーク時間17時頃）では、対米ドルで前日比0.6%、対円で同1.8%程度のメキシコペソ高となりました。

今後の金融政策について、市場では利上げの継続を予想する向きが多いものの、一部の市場参加者は利上げペースの減速を予想しています。

図1：政策金利の推移



図2：消費者物価指数（前年同月比）の推移



図3：為替レートの推移



（出所）Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

2月10日	鉱工業生産指数(2016年12月)
2月24日	経常収支(2016年10-12月期)
3月30日	金融政策発表